

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する プラットフォームの構築

テレワークによる社会課題解決のための 日本型バーチャルオフィスの研究開発

令和7年度 実証経過報告

2025年10月

株式会社テレワークマネジメント
田澤 由利（研究開発責任者）

2025年度 実証実験の概要①

●実証実験の目的

- 地域・業種・働き方の異なる複数企業に、バーチャルオフィス環境を使用した業務運営をおこなってもらい、バーチャルオフィスの利用効果（特にコミュニケーションやマネジメントへの影響等）や今後の開発に向けた課題等を確認すること。
- バーチャルオフィスという新たなコミュニケーションツールを導入するまでに必要かつ効果的なプロセス、特にテレワーク実施割合の低い企業・団体での導入支援の在り方について検証をおこなう。

●スケジュール

SIP版バーチャルオフィス使用および使用履歴計測期間：2025年6月～

※当初、2025年8月までの予定だったが、導入プロセス検証のための実証を継続中

●使用したバーチャルオフィスの特徴と技術的仕様

会議・会話・チャット・ステータス表示等の基本機能を備えたバーチャルオフィス（FAMoffice）をベースに以下機能を追加

- ①ユーザーインターフェース改善：利用者アバターのステータス変更操作の簡易化・見やすさ改善
- ②ユーザー操作履歴データ取得機能：ユーザーのコミュニケーション量や状態変化の履歴をデータ化
- ③ステータス機能改良：利用者が「今の状況」をバーチャルオフィスに反映する操作負担をより軽減する機能（特許取得済）
- ④勤怠管理ツールとの連携：バーチャルオフィス上の出退勤や中抜けを示すアバター等の操作により、勤務時間が勤怠管理ツールに自動で記録される機能（特許出願中）

2025年度 実証実験の概要②

●実証実験参加企業

2024年度実証とは異なる業種・業態の企業等3団体

類型	企業名/所在地/業種	備考
北海道過疎地域に点在する学校間連携	留萌管内教育研究所 (北海道/教育)	<ul style="list-style-type: none"> • 広域に小規模校が点在し、教員同士のコミュニケーションや情報共有機会が少ない課題あり • 教職員の教育力向上や働き方改革を目指す
テレワーク活用が難しいとされる業種の企業	株式会社三木組 (神奈川県/総合建設業)	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの現場、地方支店がある • 出社が基本の業態だが、今年度から本格的なテレワーク運用開始予定
ハイブリットワークの企業	有限会社ユー・プランニング (大阪府/デザイン業)	<ul style="list-style-type: none"> • 大部分のスタッフは出社中心 • 一部スタッフが遠隔での完全テレワーク勤務 • 各種コミュニケーション・情報共有ツールを活用

●データ収集方法

- ユーザー操作履歴データ：随時（出退勤、ステータス、コミュニケーション等に関わる操作履歴）
- アンケート：3回（利用開始時、利用期間中、利用終了時）、対象はバーチャルオフィス利用者

※当初2回予定を3回に変更

前年度実証（テレワーク実施を前提とした企業を対象）と異なり、出社中心の企業・団体が対象であることをふまえ、より丁寧な導入プロセスを踏むため、実証期間を延長、調査回数増に

- 意見投稿：随時（バーチャルオフィス環境内に投稿フォーム設置）、対象はバーチャルオフィス利用者
- インタビュー：3回（利用開始前、利用期間中、使用終了後）、対象はテレワーク推進担当者(管理職含む)

2025年度実証での調査の流れ

調査進行状況

2025年6月～

使用開始時
アンケート

使用開始前の状況把握

- 現在の働き方
- バーチャルオフィスの認知度
- バーチャルオフィス活用に対する印象
- コミュニケーションへの課題感 等

8月～

中間
アンケート

使用後の状況変化の把握1

- 利用促進策の効果
- バーチャルオフィスの利用スタイル
- バーチャルオフィス使用後の感想・使用効果
- 今後の利用意向、課題 等

2025年度内

実証終了時
アンケート

使用後の状況変化の把握2

- 利用促進策の効果
- バーチャルオフィスの利用スタイル
- バーチャルオフィス使用後の感想・使用効果
- 今後の利用意向、課題 等

使用履歴データ

バーチャルオフィス
利用実態の定量データ

- アクセス状況
- コミュニケーション機能の活用状況（会話・会議・チャット・つぶやき）
- ステータス変更操作状況 等

実証実験経過 主なポイント

1. バーチャルオフィス活用開始に対する印象

- 元々のバーチャルオフィスの認知度に関わりなく、「新ツールを使いこなせるか不安」と感じるメンバーが多い傾向
- バーチャルオフィスへの認知度が低い組織では、さらにバーチャルオフィス活用により得られる効果への期待感が薄い傾向
 - ➔ 導入時に 新ツールへの不安感・抵抗感を軽減し、ツール活用の目的や期待される効果について丁寧に説明することが重要

2. バーチャルオフィス利用開始にあたっての周知方法

- バーチャルオフィスへの理解を促し、操作体験を促す「説明会・体験会」の評価が高い
- ただし、「説明会・体験会」は業務等の都合で参加できない場合も多いため、それ以外にも周知・配布のしやすさも考慮した複数の周知策が必要
- 導入組織内でバーチャルオフィス利用が「任意」となっている場合は特に、「説明会・体験会」「マニュアル配布」以降も継続的な「利用誘因」の提供が求められる

3. バーチャルオフィス利用状況

- 各団体とも、現在はバーチャルオフィスの活用を推進する過程にあり、利用定着にはいたっていないのが現状であり、引き続き実証を継続していく
- コミュニケーション種別では「つぶやき」機能は比較的活用を推奨しやすい

4. バーチャルオフィス利用の効果と今後の利用意向

- 離れた場所にいる相手と互いの「今」の状況を伝えあったり、チームの一体感が増すといった効果は見え始めている
- バーチャルオフィスの活用度合いにより、「コミュニケーション行動のとりやすさ」につながっているケースと、そこまでの効果は出ていないケースに分かれている
- アンケート回答者の半数以上は今後もバーチャルオフィスを活用を希望しているが、一方で、現時点では「わからない」という回答も目立つ

- バーチャルオフィス活用について周知される前の同ツールに対する認知度は、実証に参加した3団体毎に大きく異なる

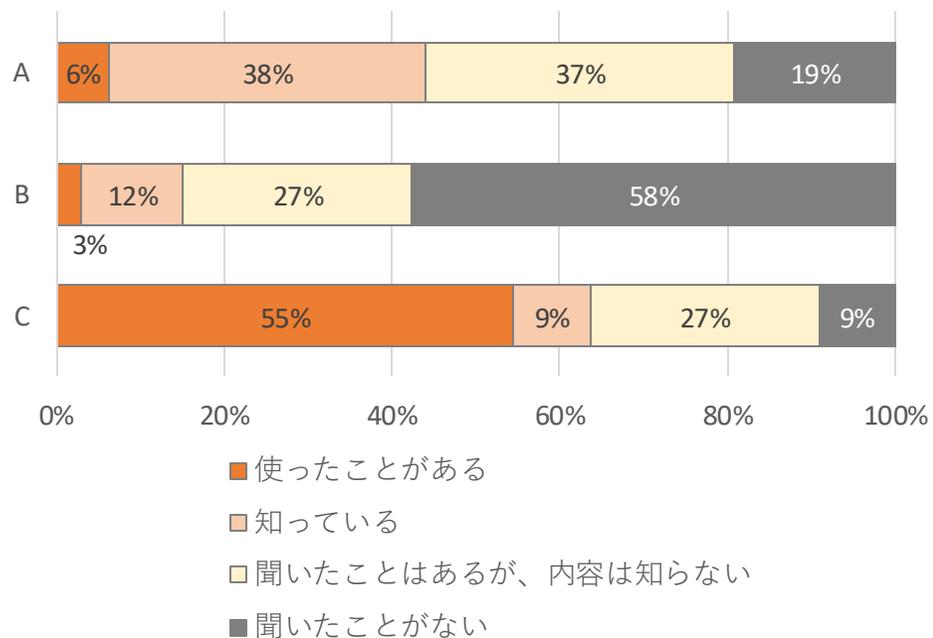
A：認知度は比較的高い

B：認知度が低い

C：回答者の半数に利用経験があり、認知度も高い

バーチャルオフィス（※）認知度（周知前の時点）

※ ここでは「仮想オフィス」「メタバース」等のワードを含む認知度

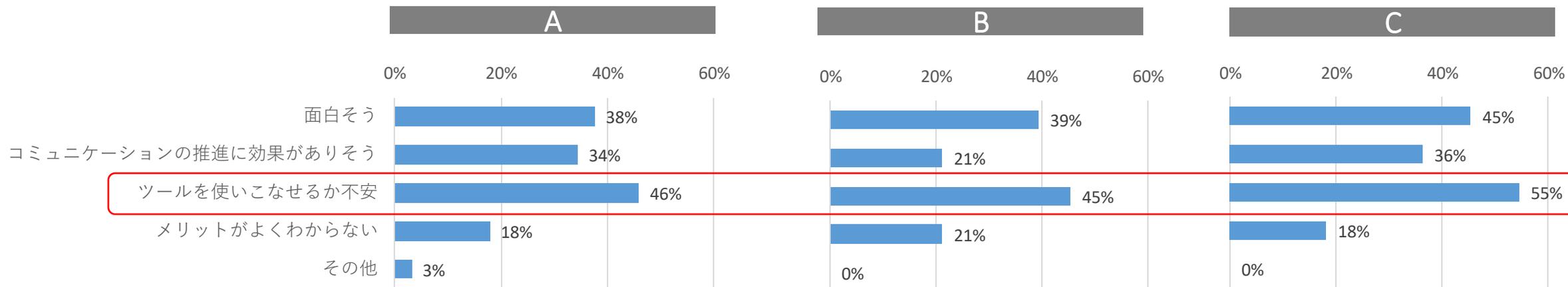


バーチャルオフィス活用に対する印象

バーチャルオフィス使用開始前に「自組織でバーチャルオフィスを活用する」ことに対して持った印象としては、以下の傾向がみられた

- 3団体共に、「ツールを使いこなせるか不安」がもっとも多いものの、次いで「面白そう」という回答が続いた
- 「コミュニケーションの推進に効果がありそう」という期待感は、バーチャルオフィスについての認知度が高かったA・Cで比較的多い認知度が低かったBでは、「コミュニケーションの推進に効果がありそう」と「メリットが良くわからない」が同程度の割合だった

バーチャルオフィスへの印象（周知時・複数選択）



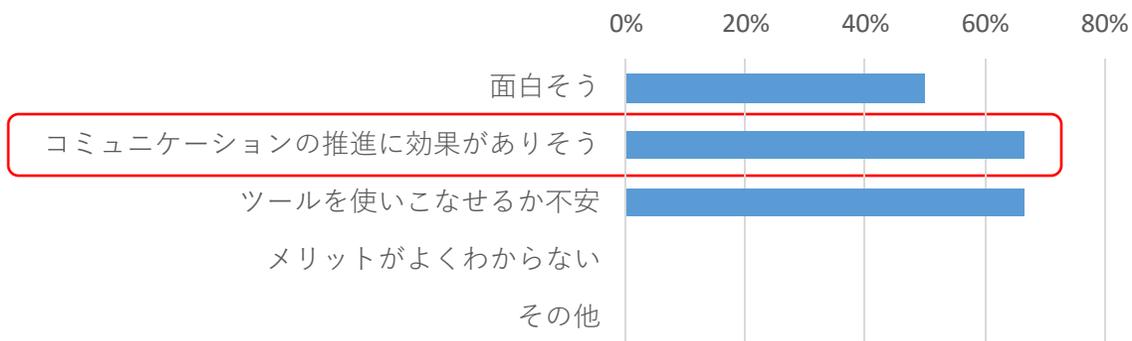
バーチャルオフィスへの印象 / テレワーク勤務有無別

3団体のうち、テレワーク勤務を運用しているCにおいて、バーチャルオフィスへの印象をテレワーク勤務の有無別に比較した

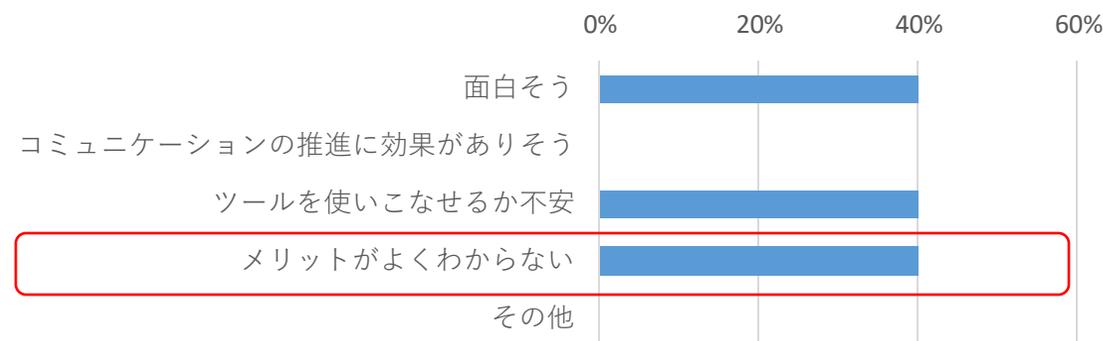
- テレワークで働く機会がある回答者では、バーチャルオフィス活用に対し、「コミュニケーションの推進に効果がありそう」という回答が多い
- 一方、テレワーク勤務のない（オフィス出社のみの）回答者では、コミュニケーション推進への期待感を示す選択がなく、逆に「メリットがよくわからない」という回答がみられた

バーチャルオフィスへの印象（周知時・複数選択）

C : テレワーク勤務あり



C : テレワーク勤務なし

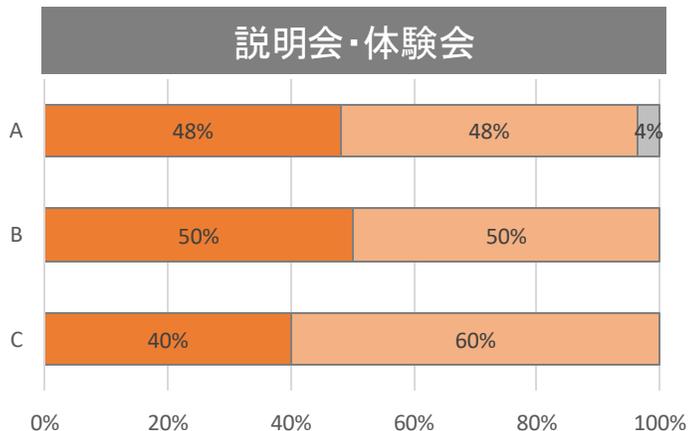


バーチャルオフィス利用促進策の効果1

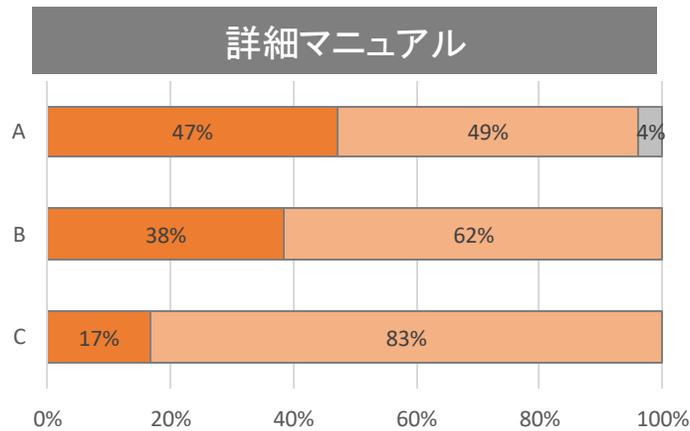
バーチャルオフィス利用開始にあたり実施した、マニュアルの配布やバーチャルオフィス説明会等についての評価は以下の通り

- 3団体共に「バーチャルオフィス説明会・体験会」の評価が高い
- 利用人数が多く、利用者の所属先が分散しているAでは、操作法のポイントを抜粋したクイックマニュアルを配布。詳細マニュアルのほうが理解促進の効果は高いが、配布のしやすさ・見やすさの点ではクイックマニュアルに大きな利点がある点を確認できた。

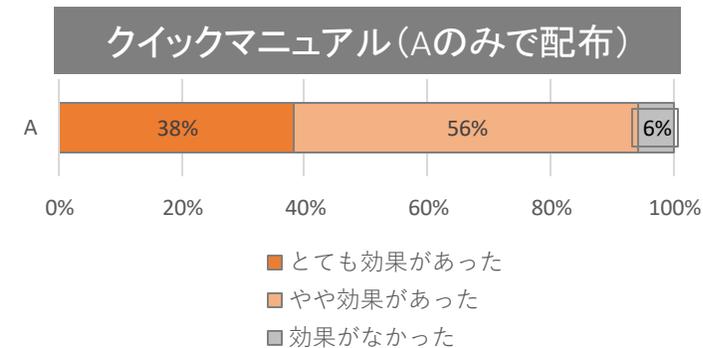
バーチャルオフィスの理解促進に果たした効果



■ とても効果があった
■ やや効果があった
■ 効果がなかった

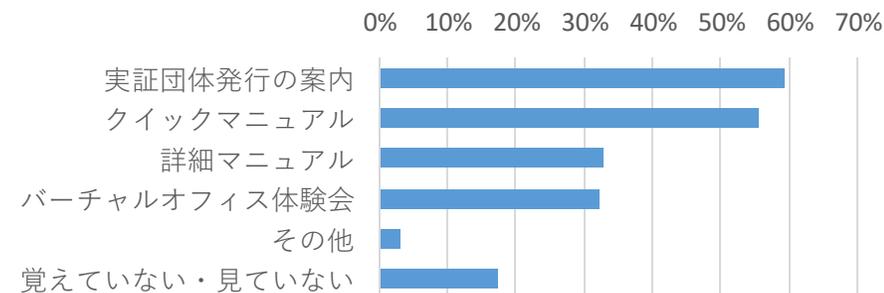


■ とても効果があった
■ やや効果があった
■ 効果がなかった



■ とても効果があった
■ やや効果があった
■ 効果がなかった

見たことのある案内周知 (Aのみ)



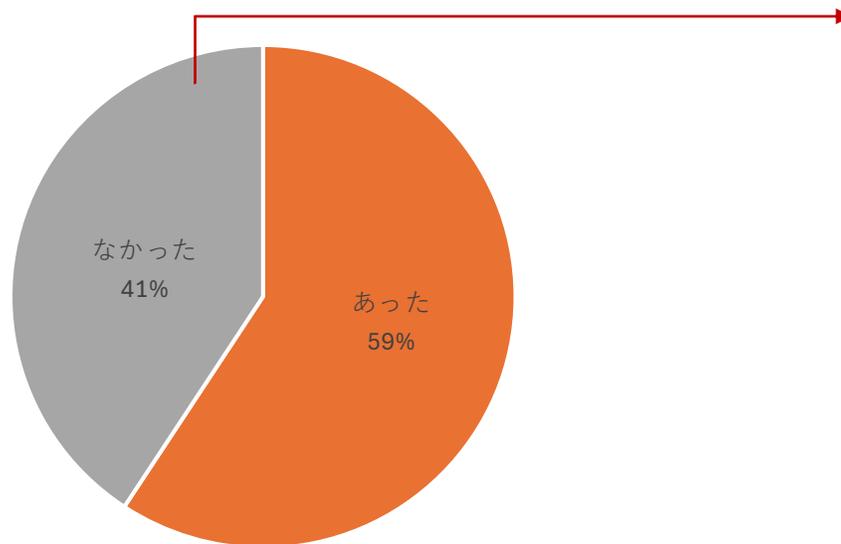
バーチャルオフィス利用促進策の効果2

バーチャルオフィスの理解促進の効果において、比較的評価の高かった「説明会・体験会」であるが、バーチャルオフィス利用者数が伸び悩むAにおいて、体験会参加後のバーチャルオフィス利用率は59%にとどまった。

体験会に参加していても、後にバーチャルオフィス利用がなかった理由について確認したところ、「特に必要を感じなかった」「他の業務が忙しいから」というコメントが多かった。

バーチャルオフィスの任意利用を定着させるには、「バーチャルオフィスを利用したい」と思わせるような誘因・きっかけを継続的に提供することが必要であることがあらためて確認できた。

体験会参加後のバーチャルオフィス利用有無（Aのみ）



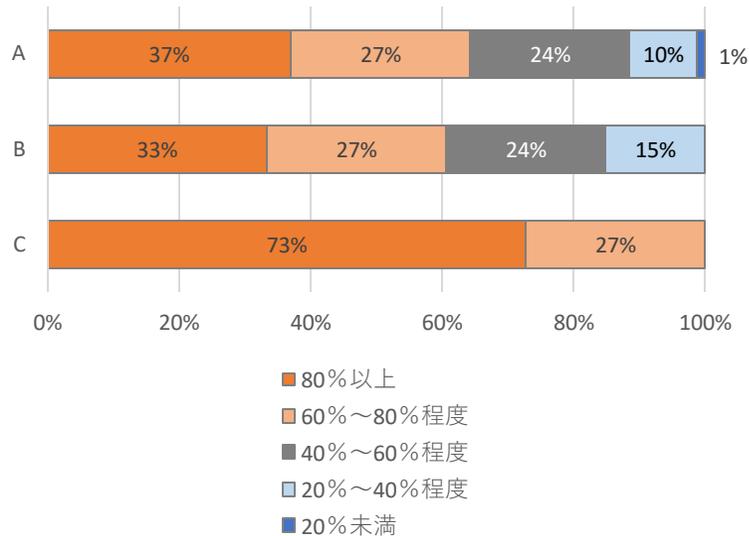
利用しなかった理由（Aのみ）

- 特に必要性を感じなかったため。（同意見多数）
- 他の業務が忙しく、機会がなかった。（同意見多数）
- 便利な活用法があるのなら利用する価値はあると思うが、自分から積極的に活用しようとは思わなかったため。
- 今後必要のあるツールだとは思っているが、正直まだ頭がついていないため。

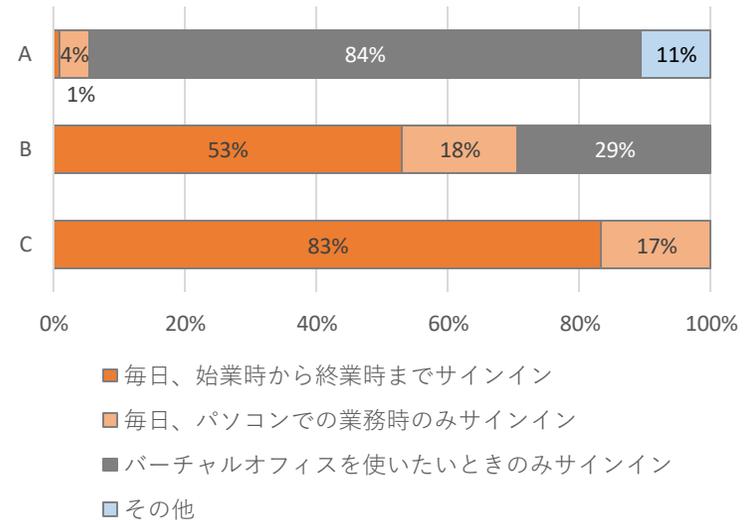
バーチャルオフィス利用スタイル

- 3団体のうちA/Bは業務全体に占めるパソコン使用業務の割合にバラツキがあるが、Cはパソコン使用業務が中心の業態。
- バーチャルオフィスの使用形態は、各団体により大きく異なる
 - A： 任意使用となっており、「バーチャルオフィスを使いたいときのみサインイン」する利用者が大半を占める
 - B： 約半数は「始業から終業までサインイン」しており、「パソコンでの業務時のみサインイン」を含めると全体の7割を占める
 - C： 全体の8割が「始業から終業までサインイン」

パソコンを利用する業務の割合



バーチャルオフィス利用スタイル



バーチャルオフィス利用状況：団体A

[利用促進に向けた取組]

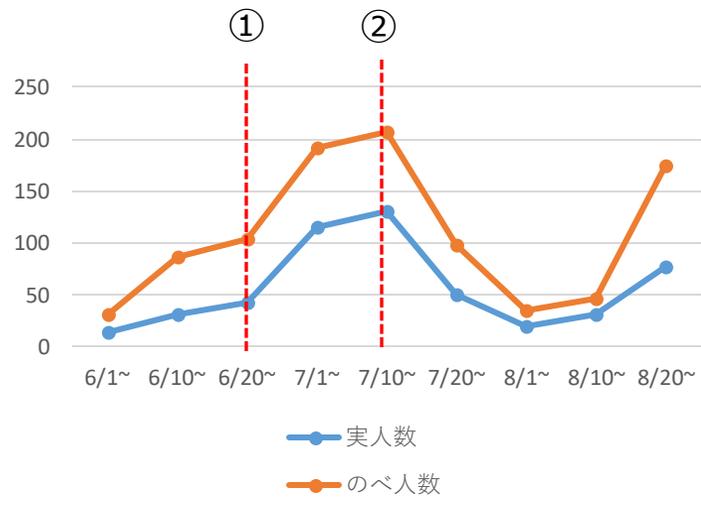
2025年6月までにバーチャルオフィス環境準備・運用推進プロジェクトメンバー等による仮運用

- ① 利用対象者全員へのアカウント発行周知・マニュアルその他資料の配布（6/20）
- ② バーチャルオフィス体験会の実施（7/10）

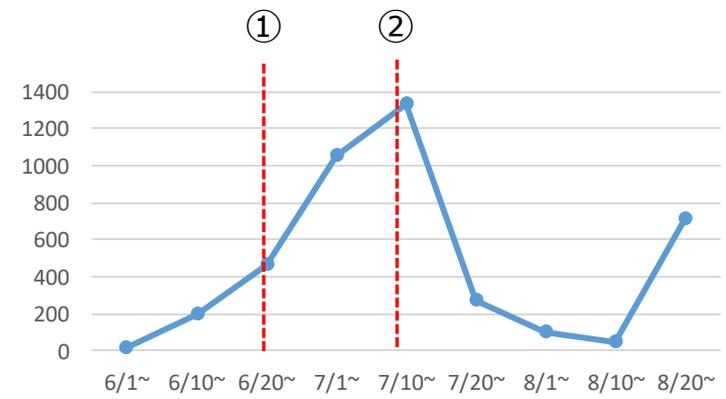
[利用概況]

上記①以降、バーチャルオフィスへのアクセス・操作回数が増加、②の体験会に数十人の参加があったことで操作回数が急増。それ以降は一旦利用が減るも、夏季休業明けから利用が回復傾向にある。

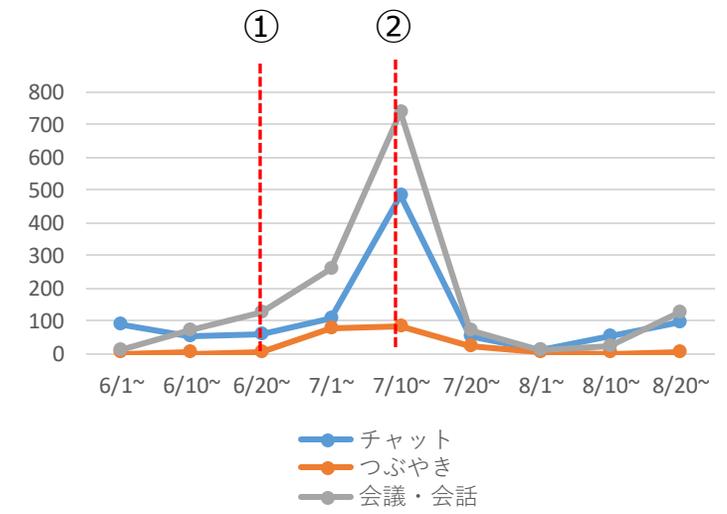
利用人数（実人数・のべ人数）



ステータス変更回数（のべ回数）



コミュニケーション回数（のべ回数）



バーチャルオフィス利用状況：団体B

[利用促進に向けた取組]

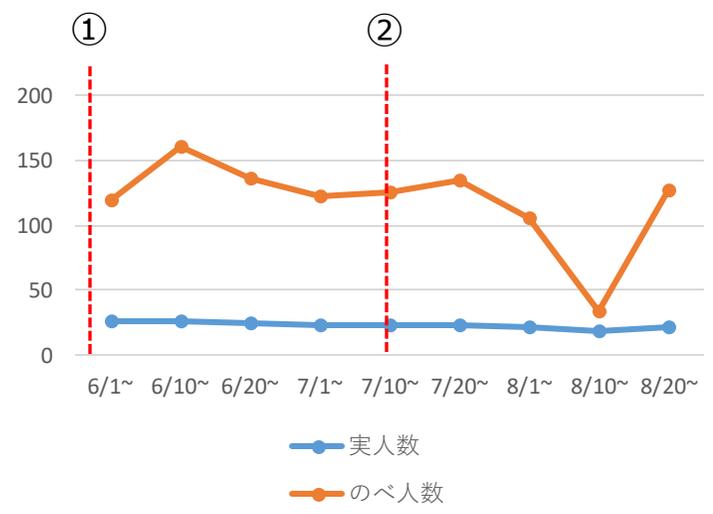
2025年5月末までにバーチャルオフィス環境準備・利用対象者へのアカウント発行周知・マニュアル資料の配布完了

- ① バーチャルオフィス説明会の実施（5/29）
- ② バーチャルオフィス利用促進に向けたお打合せ・アドバイス（7/17）

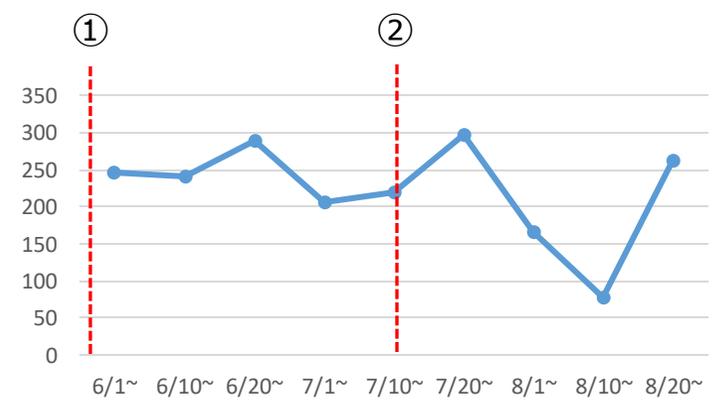
[利用概況]

バーチャルオフィスの自動起動設定等も実施いただき、利用者のアクセス状況は安定。一方でバーチャルオフィス上でのコミュニケーション利用状況が芳しくなかったため、お打合せ実施。「つぶやき」機能の活用等により、バーチャルオフィス上の賑わい創出のアドバイスをさせていただき、コミュニケーション回数が増加。 ※8月の利用減は夏季休暇等の影響

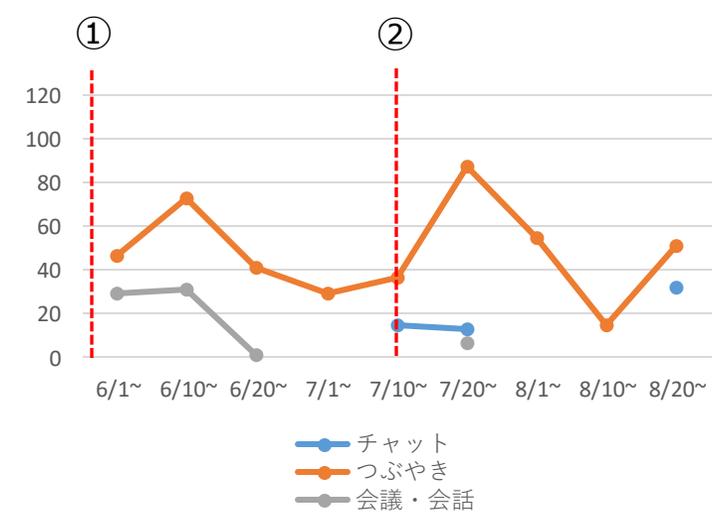
利用人数（実人数・のべ人数）



ステータス変更回数（のべ回数）



コミュニケーション回数（のべ回数）



バーチャルオフィス利用状況：団体C

[利用促進に向けた取組]

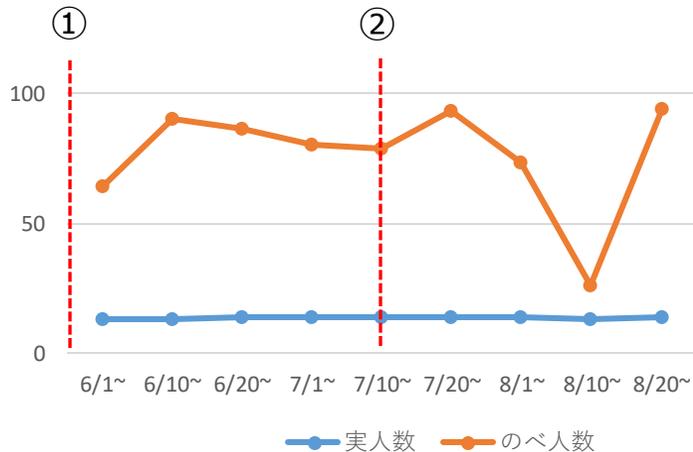
2025年5月までにバーチャルオフィス環境準備・利用対象者へのアカウント発行周知・マニュアル資料の配布完了

- ① バーチャルオフィス説明会の実施（5/12）
- ② バーチャルオフィス利用促進に向けたお打合せ・アドバイス（7/15）

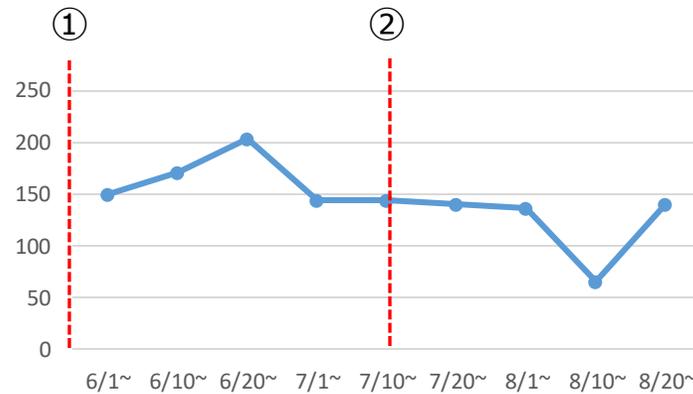
[利用概況]

就業中はバーチャルオフィスにサインインするルールで全社利用。社内定例会議をバーチャルオフィス上で実施いただいていたが、それ以外のコミュニケーション利用状況が芳しくなかったため、お打合せ実施。「つぶやき」機能の利用促進のアドバイスをさせていただき、社内で丁寧に呼びかけを続けていただいた結果、コミュニケーション回数が増加。 ※8月の利用減は夏季休暇等の影響

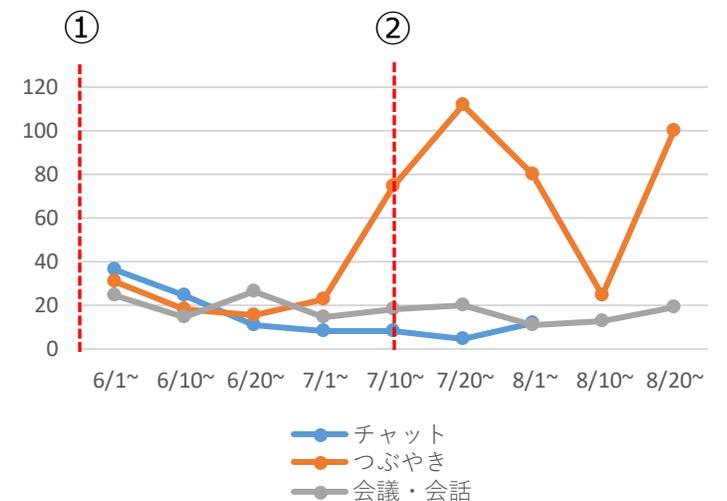
利用人数（実人数・のべ人数）



ステータス変更回数（のべ回数）



コミュニケーション回数（のべ回数）



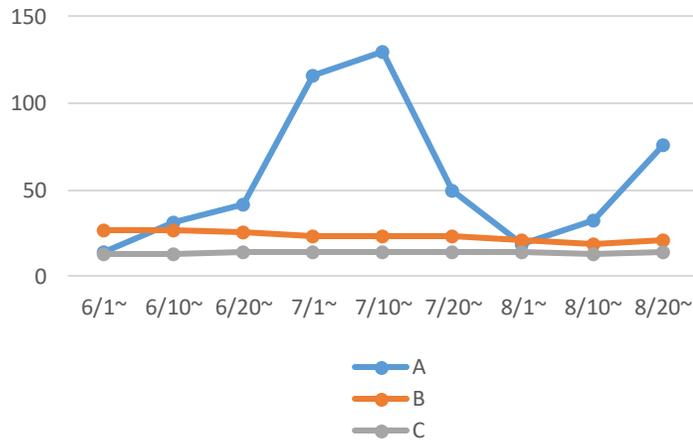
バーチャルオフィス利用状況：3団体比較

実証3団体のバーチャルオフィス状況を並べた推移は以下の通り。

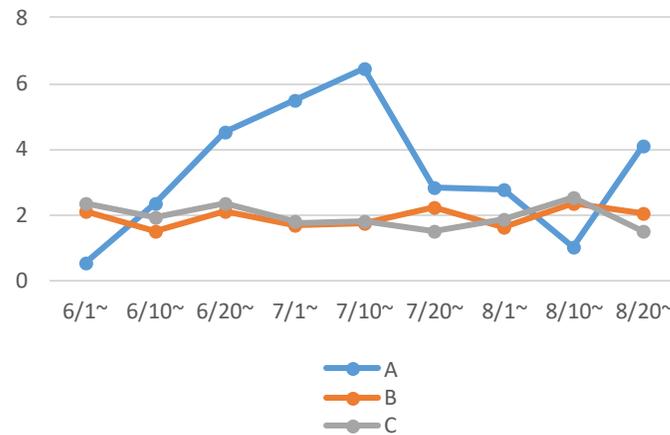
Aについてはイベント等でのバーチャルオフィス活用が中心であるため、アクセス数にバラつきが大きい。コミュニケーションを取りたい人がバーチャルオフィスにいる環境を作り出すため、日常的なアクセスを推進するための取組を継続していく。

B/Cについては、バーチャルオフィスのアクセス自体は定着してきているため、今後はその活用効果を高めるための取組をそれぞれ継続していく。

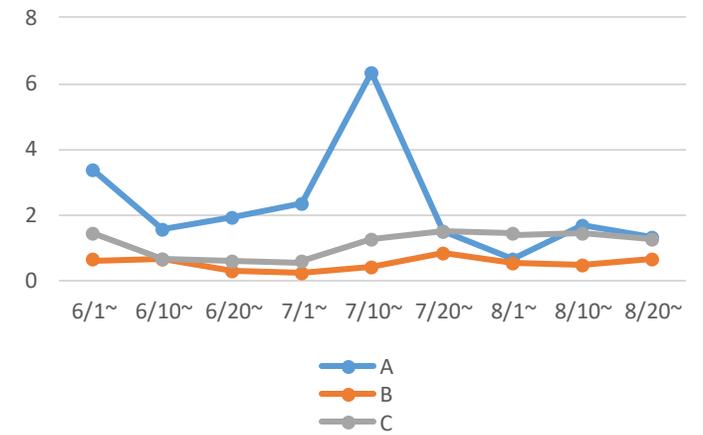
利用人数（実人数）



ステータス変更回数
 (1人/1日あたりの平均)



コミュニケーション回数
 (1人/1日あたりの平均)



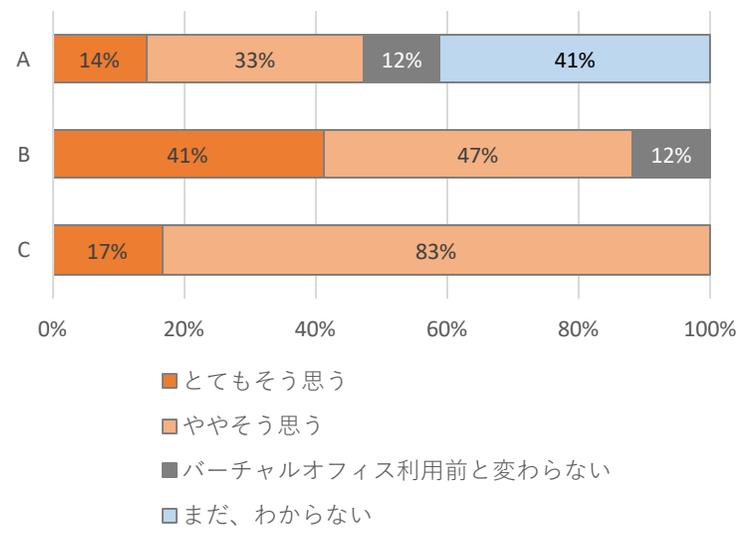
[使用後の感想] ステータスのわかりやすさ 等

バーチャルオフィスを実際に使用した印象は次の通り

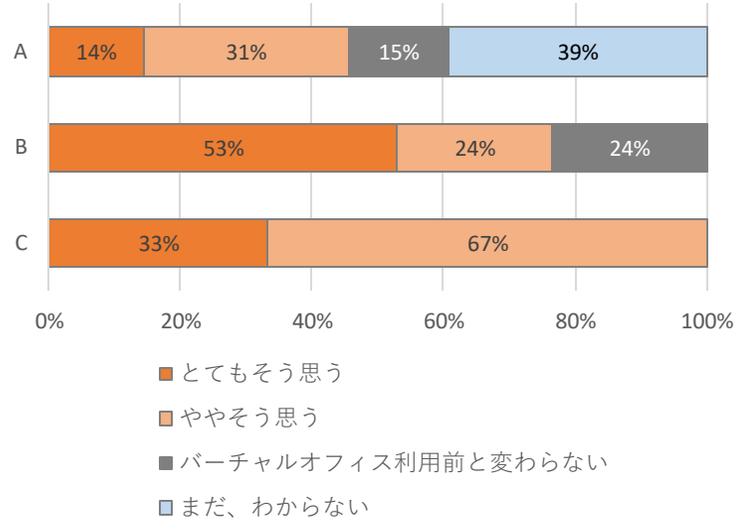
A : ステータスの伝えやすさ等、ポジティブな印象を持つ回答が 4 割から 5 割弱、まだ「わからない」が約 4 割

B/C : ステータスの伝えやすさ・わかりやすさに関してはポジティブな印象を持つ回答が多いが、ほかのメンバーへの話しかけやすさに関しては、バーチャルオフィス利用前と変わらないという回答も目立った

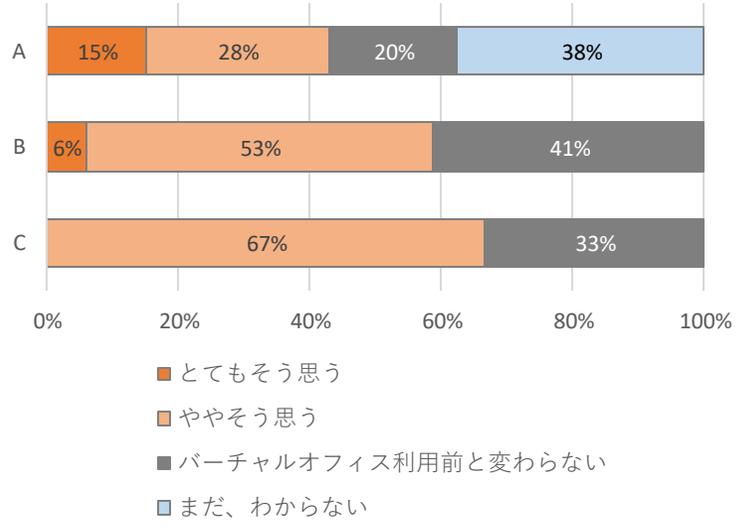
自分の「今」の状況を周囲に伝えやすい



他メンバーの「今」の状況がわかりやすい



他メンバーに話しかけやすい



[使用効果] 離れた場所にいる相手とのつながり

バーチャルオフィスを常時利用しているB/Cにおいて、離れた場所で働く相手とのコミュニケーションの取りやすさ等への評価が、バーチャルオフィスの使用前後でどう変化するかを確認したところ、以下の結果となった。

B：バーチャルオフィス活用後に、相手の繁忙状況等のわかりやすさ、チームとしての一体感等は向上したが、「話しかけやすさ」の向上等、具体的なコミュニケーション行動につながる変化はみられなかった

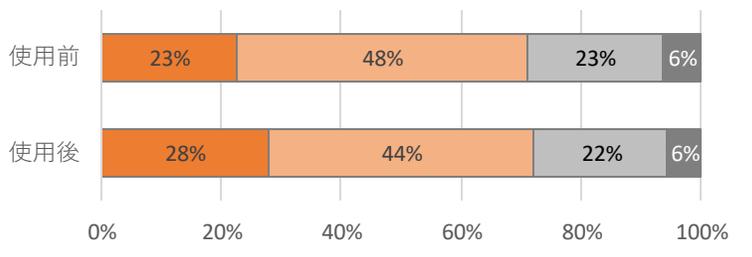
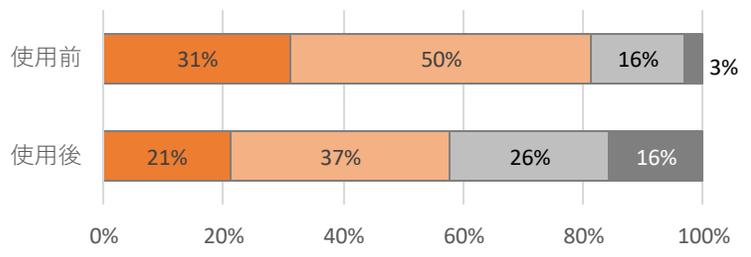
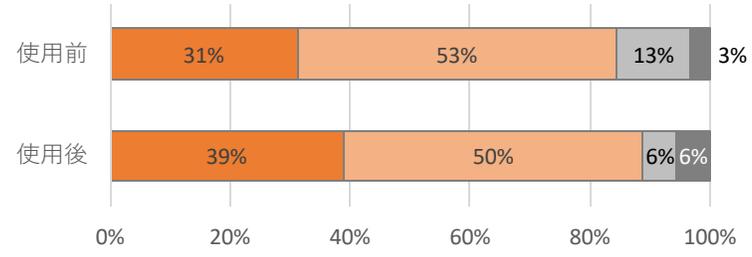
C：バーチャルオフィス活用後に、コミュニケーションの取りやすさやチームの一体感等の評価がアップした

相手の状況（繁忙状況等）がわかりやすい

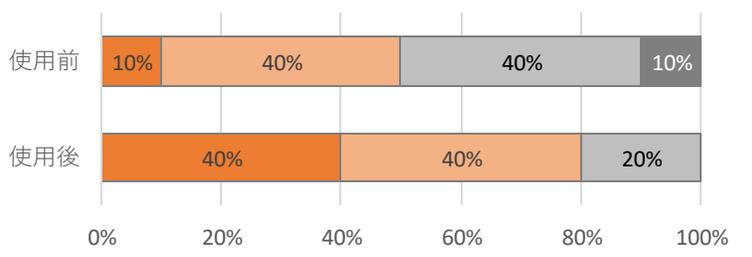
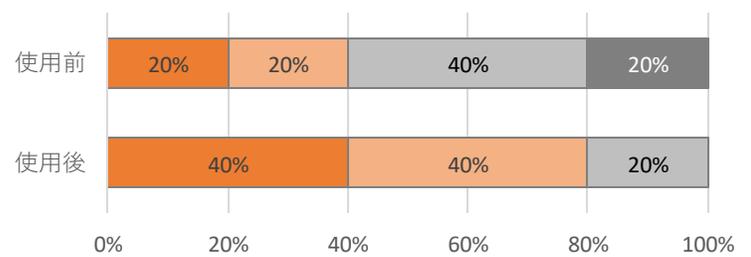
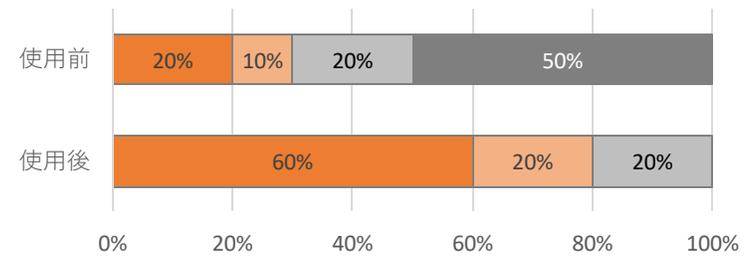
気軽に話しかけやすい

チームとしての一体感を感じている

B



C



- とてもあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

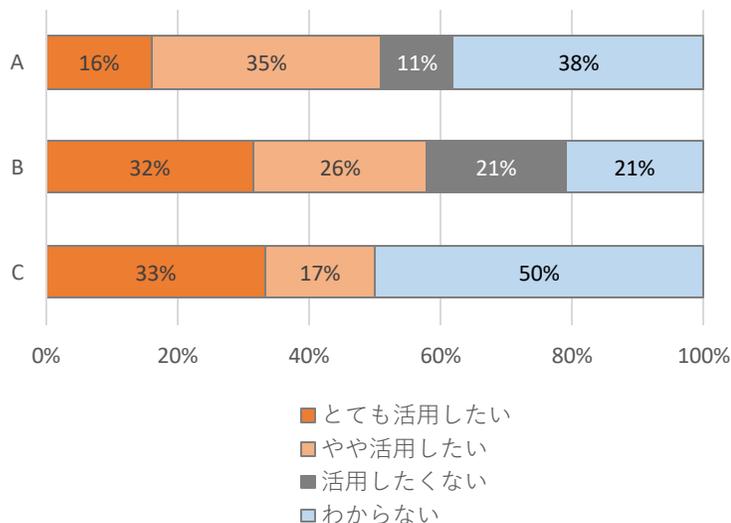
- とてもあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

- とてもあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

今後の利用意向

- 今もバーチャルオフィス活用を推進中という背景もあり、現時点では今後の活用意向に関して「わからない」という回答も多い
- 利用意向がある回答者は、その理由として、離れた場所にいるメンバーを含むコミュニケーションの活性化や利便性をあげている
- 利用意向がない、もしくはわからないという回答者では、そもそも現状のコミュニケーションに不足を感じていないケースや、外出や出先での勤務が多い等の理由があがった

今後の利用意向



活用希望する理由等

- 普段から入室し交流できるようにしておきたい
- 会議室でのzoomやチャット機能は使いやすい
- 研修などにおいて、移動の負担軽減に繋がるツールだと思いました
- 在宅勤務だけではなく、本社・支店・複数ある現場勤務のそれぞれに配属されている従業員がどんな状態（ステイタス）が一目で分かり、声かけ等のタイミングについて配慮できる。
- 操作方法が簡単でわかりやすい。電話などで聞きづらいことをチャットを使って連絡することができる
- テレワークへの第一歩だと思うので
- 他の社員との交流の場として活用したい
- 便利なおところが多いから あってもいいと思います

活用したくない・わからない

- それである必要性がまだわからないから
- 相談したいことがあった時に、周りの人にすぐ相談出来ているから
- 仕事に集中したい
- 業種によっては大活躍と思うが、自社には必要ないと思う
- 無くて現時点では困らなさそう。
- 現場に出ていると活用する機会があまりないから
- 全体的に浸透していない